

サッビオネータ、Sabbioneta

マントヴァ県の南西端にある六角形星型の城壁に囲まれた街で、城壁の中は今も16世紀の街の姿をそのまま残していることから、2008年にマントヴァとともに世界遺産に登録されました。また、その芸術性の高さからルネッサンスの小アテネと呼ばれています。ここはマントヴァを治めたゴンザーガ公爵家のヴェスパジアーノ（1531-1591）によって作られた街です。彼はもともとゴンザーガ家の直系ではなく公爵の跡継ぎではなかったため、辺境のこのサッビオネータを与えられました。彼はここをマントヴァに匹敵するような街にしようと考え、城壁で囲み、庭園宮殿、公爵（ドゥカーレ）宮殿、そして古代風劇場を次々と建設しました。小さな独立した国家だったサッビオネータは、防御に大変ふさわしい構造をしており、ポー平野の中心に石造りの要塞都市の姿を呈しています。

このもう一つの見所にシナゴークがあります。ユダヤ教はキリスト教とは違い教会内をあまり見せたくないの、一般公開されているこのシナゴークは貴重です。

サッビオネータは、つい最近世界遺産に登録されてガイドブックでも取り上げられていたので、ぜひとも訪れたいと考えていました。但し、マントヴァからバスで1時間以上かかる上にバスの本数が少なく日帰りで訪ねるのは非常に難しく、一度マントヴァまでは行ったものの、サッビオネータまで行くのはこれまで躊躇していました。お勧めは、やはりマントヴァに1泊です。

バスは日曜・休日にはありません。ですからサッビオネータに行けるのは普段の日か土曜日だけです。またバスの時間を調べたところ、午前中はマントヴァの駅前から9時17分と12時17分の2本だけ。サッビオネータからマントヴァ駅への戻りは、14時58分、16時58分、18時58分（但し、これでは遅すぎてミラノに戻る列車が無い）の3本だけしかありません。従って、9時17分で行って、14時58分に戻るか、12時17分で行って、16時58分に戻るかの2通りしかありません。9時17分のバスに乗るには、ロゴレドを朝の6時33分の列車となります。また、16時58分に戻るとミラノへの列車は19時43分となりロゴレドに到着は夜の9時半となります。要するに、朝早く出るか、夜遅く戻るかの選択となります。私は、朝早く出ることを選択しました。

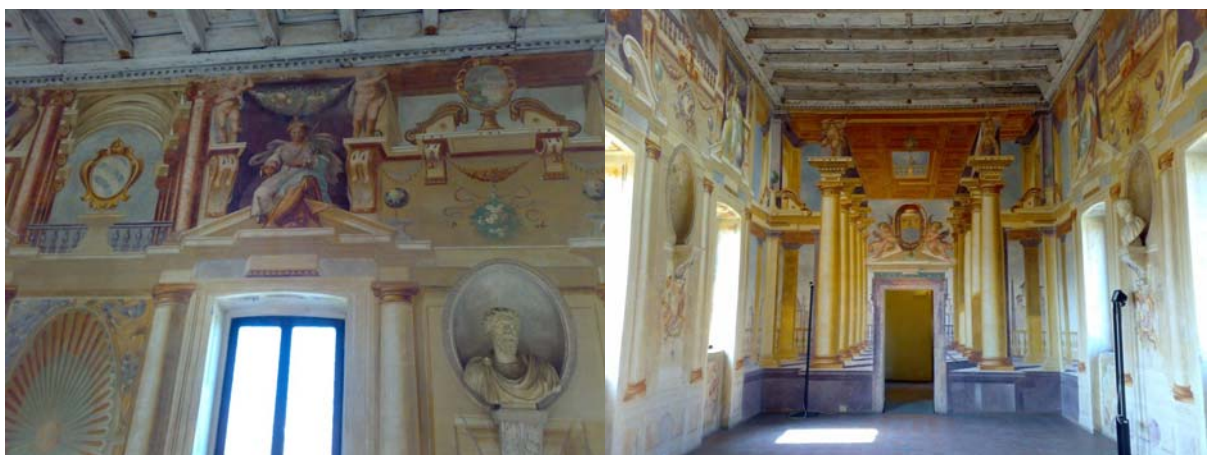
サンドナートからの始発（始発なのに8分も遅れました）に乗ってロゴレドに行くと、自動販売機は全部壊れている上に、窓口はまだ空いていません。列車が動いていても駅員は定時（8時半頃かな？）に仕事開始のようです。もちろん、売店も閉まっていますので、切符を買うすべはありません。仕方なく、切符なしで乗車し、自己申告で社内にて買うことにしました。でも、車掌が現れたのは、クレモナを過ぎてからでした。ロゴレドで切符が買えなかったことを何とか車掌に伝えると、問題なく清算してくれたのですが、金額が9.6ユーロで、通常は8.75ユーロより高い。文句を言うと、彼はクレモナの管轄のため、まずロゴレドからクレモナの清算をして、クレモナからマントヴァの切符を発行する事になるそうです。その為、金額が高くなります。100円の損害でした。列車は汚い2等車でしたがエアコンつきで席もやわらかく空いていて快適でした。

マントヴァには8時37分定刻に到着。駅を出て左に歩くと、マントヴァのバス会社APAMの事務所があり、そこでサッビオネータまでの切符（戻りも購入）を購入。停留所は、APAMの前の道路の反対側車線でした。時間があつたのでマントヴァの街をぶらついて、9時17分の定刻にバスは発

車。客は、私と黒人男性の 2 人だけでした。このバスはエアコン付の快適なバスです。サッピオネータまで、田舎の道を田舎の村や街に停まりながら進みます。イタリアの田舎の村や街は良い雰囲気です。バス旅行もいいもんです。そんな小さな村や街でもちゃんと広場には古い大きな教会があります。お城まである名も知らない街もありました。このあたりの村や街を訪ねるだけでも素晴らしい観光バス旅行に成ります。10時30分近くにサッピオネータに到着。この時はバスには私ひとりでしたので、運転手の人が親切に着いたことを教えてくれました。サッピオネータはさすがに、他の村や街とは違って、城壁に囲まれていますので、直ぐにわかります。



インフォメーションに直行し、そこで、共通チケット（10 ユーロ）を購入します。ガイドブックにはガイド付きのツアーがあると書いてありましたが、ガイドはイタリア語だけみたいです。私には誰もつきませんでした。でも、それが好都合でした。観光名所の内部はすべて写真撮影禁止ですが、ガイドがつかず見はりもないので撮影は自由でした。城壁内は、それほど広くなく歩いて回るのに丁度良い距離です。まず、インフォメーションの事務所がある庭園宮殿から見学です。フレスコ画の保存状態も良く、人も少なく、ゆっくりと見ることができました。どうも、ここは、だまし絵が好きなようで、芸術のギャラリーの入口と出口はこの廊下を長く見せるようにだまし絵で画かれています。



続いて、古代風劇場へ。思っていたよりも小さな劇場でした。ミラノのスカラ座とは大違いです。ここも、舞台に深さを持たせるように配置がなされ、客席の回りのフレスコ画も広く見せるようにだまし絵となっています。また、オリンポスの神々の彫刻が天井を飾っています。ここが一番良かったので、2度も入りました。



次は、ドゥカーレ宮殿です。ドゥカーレとは公爵という意味だったのでね。ここで見るべきものは、フレスコ画と天井の木の彫刻です。また、2階にはこれも木彫りの騎馬像があります。ここも小さな宮殿です。この街は、すべてがこじんまりとまとまっています。



最後の名所は、シナゴークです。ユダヤ教はイスラム教と同様に肖像の崇拜は禁じられていますので、絵画や彫像は一切無いシンプルな礼拝堂です。私にとっては、初めてのユダヤ教の教会でした。



これらを見て回るのには 1 時間半で十分でした。広場で昼食後、こんどは、街を見て回ることに。インコロナータ教会、城壁沿いに東西にある 2 つの門と、中世の香りを残す街の中を歩きました。確

かにどこもかしこも中世の香りがしますが、イタリアはどここの街に行ってもこのようなところがあるので、それほど感動はありません。但し、世界遺産なのに土産物屋をはじめとしてお店が少ないのには驚きました。残念なのは駐車している車が多すぎることです。これではせっかくの中世の香りも台無しです。街は小さいので街歩きも1時間あれば十分です。



街をすべて見尽くしても、帰りのバスの14時58分までの時間を持て余してバス停の前のパールで一休みをしました。帰りのバス停は降りたところ（正面入口）と違い、東の門（インペリアル門）の外にあるパールの前です。マントヴァ方面にはバスストップが無いのですが、道に立っていればバスが停まるとパールの店員に言われ、言われたとおりに立っていると、10分遅れでバスが来て無事にマントヴァに戻りました。帰りのバス（エアコンつき）も黒人男性（何故か黒人が多いところ）と2人だけでした。こんなに利用客が少なくて、バスの本数を増やすわけにはいきません。

マントヴァでは列車まで1時間半以上の待ち時間があり、又、マントヴァ市内にくりだし世界遺産の梯子です。私のお気に入りの一つであるサンタンドレア教会は残念ながら修理中でしたが、ドゥカーレ宮殿をはじめとしてたくさんの歴史的な建物やカフェのあるきれいな広場、湖が望めるきれいな景色、ブランド店、ジェラテリア、カフェが並ぶ商店街はすばらしく、同じ世界遺産でも都会のマントヴァのほうが自分の好みに合っているような気がしました。また、ゆっくりと訪ねてみたいものです。17時37分の列車（こちらエアコンつき）に乗り、ロゴレド到着は午後7時35分でした。